第3種郵便物認可 琉球新報 201

現職と対決 前面

辺野古阻止へ説明が鍵

翁長氏公約

解説

翁長雄志前那覇市長は知事選に向けた公約で、カジノ誘致や原発建設への反対などを掲げた。最大の争点となる米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設以外でも現職の仲井真弘多知事との違いを前面に打ち出し、対立軸を設定した。移設問題では「あらゆる手法を駆使して辺野古に新基地を造らせない」ための具体策として、仲井真知事による昨年末の埋め立て承認を検証し、判断に瑕(か)疵があれば取り消しも可能との考えを示した。

翁長氏は公約で「原発事故があれば小さな島だけに被害は甚大」などと掲げた。仲井真氏が東日本大震災後の県議会で、沖縄電力による小型原子力発電の導入可能性に関する研究に対し「重要な勉強」と答弁したことなどを踏まえ、姿勢の違いを訴えた形だ。

カジノ誘致反対も掲げた。陣営内には慎重な意見もあり議論が続いたが、最終的には「沖縄観光の将来に影響を及ぼしかねない」と反対を明記。仲井真氏との対立軸の一つとした。

翁長氏は会見で、政策には明記していない高江ヘリパッド建設反対も表明した。オスプレイの配備撤回などを求めて全市町村長らが署名した「建白書」を重視する立場から、オスプレイの飛来が指摘される高江の問題でも踏み込んだ。一方で那覇軍港移設では、計画決定時の浦添市の受け入れを挙げて辺野古の新基地とは事情が違うと説明した。

現県政の振興計画「沖縄21世紀ビジョン」については評価。「経済」か「平和」かの保革対立構図に終止符を打ち、沖縄政治に新たな局面を築くために「われわれが試される」と説いた。

公約全体を通して現職仲井真氏との違いをアピールした格好だが、特に強調する辺野古移設阻止の具体的な道筋について、有権者にどう訴え、支持を広げていくかが鍵となりそうだ。

(古堅一樹)

会見一問一答

―高江ヘリパッド建設や那覇軍港移設の賛否は。

「ヘリパッドはオスプレイの配備撤回を求めている中で連動し反対する。軍港の浦添移設は以前に浦添市長が受け入れを明言し、移設協定が結ばれ、それを尊重して今の状況がある」

―辺野古移設反対であらゆる手法を取るとは。

「知事選に勝利しノーという県民意思を日米両政府に示す。承認に法的な瑕疵(かし)があれば取り消し、瑕疵がない場合は撤回という方法がある。『あらゆる手法』の中に入っている」

「(県環境部の認識は)昨年11月時点では環境面で大変厳しいというものだった。法的な瑕疵があることはあり得る。その場合、取り消しができる」

―移設問題の具体策は。

「基地は沖縄が求めたものではない。沖縄に70年も放置しておいて動かそうという時に、県外にはノーという権利があって沖縄にはないのか。移設先を沖縄が探すべきだという発想が違うのではないか。日本全体でどこに置くべきか、ぜひ考えてもらいたいと沖縄は堂々と主張する」

―仲井真県政の評価は。

「経済振興での努力など一定評価している。その部分は引き継ぎ、発展させていきたい。4年前、選対本部長として全力を尽くしたが、県外移設が重要な要素だった。知事の『固定化は政治の堕落』という発言に本気度を感じ身震いしたが、振興策と埋め立て承認をリンクさせたとみられたことの罪は大きい。子孫が誇りを持つ沖縄の原点が崩された感じがして残念だ」

翁長雄志氏の主な政策

3つのノー	新基地建設・オスプレイ配備	自ら建設に加担し、子や孫の世代に基地被害を押しつけることになる新基地に反対し、過重な基地負担の解消を求める
	不当な格差	労働環境、賃金、非正規雇用など未来に希望が持てない連鎖する格差に反対する
	原発建設	沖縄に原発が置かれ、事故が起これば被害は甚大
10のイエス	アジア経済戦略構想の実現	巨大マーケットの中心に位置する地理的優位性を活かす
	次世代型交通ネットワークの構築	環境、交通弱者に優しいLRTの整備で南北縦貫鉄軌道と循環路線を結ぶ
	こども環境日本一の実現	子どもの貧困対策、待機児童ゼロ、認可外保育所、児童クラブ、発達障がい児に対する支援を拡大。少人数学級の導入推進
	沖縄発オリンピック・パラリンピック選手の育成支援	沖縄から羽ばたき、世界の大舞台で活躍する選手の育成支援に取り組む
	地域・離島・こども元気創造基金の創設	老人会、婦人会、青年会などの活動費、児童生徒の大会遠征費を助成。離島の魅力を体感する「島たび助成」の実施
	市町村との連携・住民目線のまちづくり	市町村の声に寄り添いながら、住民目線で市町村との連携によるまちづくりを進める
	クルーズ船バース増設整備・母港化推進	20万トン超級の接岸可能なバースの増設。沖縄観光の裾野が広がるクルーズ船の母港化の推進
	環境共生アイランド・再生可能エネルギーの推進	増大するエネルギー需要に対応する再生可能エネルギーの推進
	J1対応サッカー場とボールパークの整備	キャンプ誘致などによりスポーツコンベンションアイランドとして新しい地位を築く
	「しまくとぅば」の保存、普及と継承	沖縄の伝統文化とアイデンティティーの根源を次世代に確実に継承する